科目ナンバリング	G-LAS13 80019 LJ90								
授業科目名 <英訳>	公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション Risk Communication for Public Health Emergencies			担当者所属 職名・氏名	医学研究科　教授　中山　健夫 非常勤講師 蝦名　玲子				
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	健康・医療系		使用言語	日本語			
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義（対面授業科目）		
開講年度・開講期	2026・ 通年集中	曜時限	集中 9/16, 2/9	配当学年	大学院生	対象学生	全学向		

（医学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

平時と健康危機下では求められるリスクコミュニケーションが異なる。これを踏まえ、本授業では公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーションへの理解を深め、適切な実践が遂行できる人材の養成を目的とする。
本授業は、前期（入門編）と後期（応用編）から成る。
まず前期では、緊急事態下のリスクコミュニケーションの基本となる概念や理論を学び、危機下でコミュニケーションを難しくするリスク認知と感情（アウトレイジ）の問題や対応方法、戦略的リスクコミュニケーション計画の策定方法、保健医療専門職個人や行政等のリスク管理組織が信頼を構築するための体制について、演習を交え理解を深める。
後期では、恐怖感情の高まりや情報処理能力の低下により判断が難しい状況においても、根拠を活用した意思決定ができるようなリスク説明や合理的な判断へ導く方法について学ぶ。また、情報公開場面において考慮すべきマスメディアとの協働、スティグマへの対応や虚偽情報の処理の仕方、緊急事態によるリスクに脆弱な人々との対話等、より具体的かつ難易度の高いコミュニケーションについて学ぶ。

教育・学習方法：講義形式と演習。

[到達目標]

本授業を通じて、公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーションの理論・概念・原則を理解し、その意義や役割を適切に説明できるようになる。また、リスク認知や感情、理解度を把握し、相手に応じた双方向のリスクコミュニケーションを実践できる能力を養う。さらに、健康危機に備えた戦略的リスクコミュニケーション計画や対応体制を提案する能力を身につけるとともに、スティグマや虚偽情報への適切な対応、マスメディアとの協働を通じて、合理的な意思決定を支援できる人材となることを目指す。

[授業計画と内容]

前後期、各1日（4コマ×2日）

前期（2026年9月16日（水）４コマ）

第1回　緊急事態下のリスクコミュニケーション
平時と緊急事態下におけるリスクコミュニケーションの相違点を整理し、これを踏まえた我が国の動向と本授業の意義を確認する。そのうえで、講義の目的、到達目標、成績評価の方法について説明する。また、世界保健機関（WHO）や米国疾病予防管理センター（CDC）が示すリスクコミュニケーションの理論・概念・原則を学ぶ。さらに、初動期に求められるリスクコミュニケーションについて解説し、2020年のダイヤモンド・プリンセス号におけるCOVID-19アウトブレイク対応事例を題材とした演習を通じて理解を深める。

公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション(2)へ続く↓↓↓

第2回　リスク認知とアウトレイジ
緊急事態下におけるリスク認知と感情（アウトレイジ）の影響、コミュニティ・エンゲージメント、意思決定とエンパワメントの重要性と実施方法について説明する。また、維持期と解決期に求められるリスクコミュニケーションについて解説し、ダイヤモンド・プリンセス号におけるCOVID-19アウトブレイク対応事例を題材とした演習を通じて理解を深める。

第3回　戦略的リスクコミュニケーション計画
事前準備期に求められるリスクコミュニケーションについて解説する。戦略的リスクコミュニケーション計画に焦点を当て、ダイヤモンド・プリンセス号におけるCOVID-19アウトブレイク対応事例を題材とした演習を通じて理解を深める。

第4回　信頼の構築と体制
危機対応従事者が個人としてリスクにさらされている人々と信頼を構築するための条件について理解する。また危機管理組織が信頼を構築するための条件を学び、ガバナンス、情報システム、キャパシティビルディング、財政の観点からCOVID-19対応を振り返る演習を通じて理解を深める。

後 期（2027年2 月9 日 **（ 火 ）４コマ ）**

第5回　リスク説明と合理的な判断へ導く方法
危機による感情の高まりや情報処理能力の低下がある状況でも、根拠を活用した意思決定を支援するためのリスク説明の方法を学ぶ。COVID-19対応の事例を振り返り、不確実性を含む高度で専門的な情報を理解可能な形で伝える演習を通じて理解を深める。さらに、ナッジを活用して合理的な判断に導くスキルを習得する。

第6回　マスメディアとの協力とスティグマへの対応
緊急事態下のマスメディアの特徴、専門家と記者の情報提供の目的の相違点を理解し、適切に協働する力を養う。またスティグマが引き起こされるメカニズムを理解したうえで適切に対応する力を身につける。さらに、COVID-19対応の事例を振り返り、スティグマを引き起こさない表現でメディアに情報を発信する方法について、演習を通じて理解を深める。

第7回　リスクに脆弱な人々とのコミュニケーション
リスクに脆弱な人々を把握・分析する方法を理解し、相手に応じたコミュニケーションを行える能力を養う。演習を通じてCOVID-19流行下での課題を整理し、理解を深める。また、危機下においては時間的な制約がある中で、もしものときに備えた対話が求められることを理解し、その実践能力を身につける。終末期で用いられているACP（Advance Care Planning）を緊急時のリスクコミュニケーションへ応用する可能性も探究する。

第8回　虚偽情報の処理
インフォデミックがもたらす弊害、二種類の虚偽情報（誤情報と偽情報）の特徴やそれぞれに対する処理方法を理解する。また演習を通じて、大衆に向けて虚偽情報を処理する方法と、一対一で処理する方法についての理解を深める。

[履修要件]

特になし

公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション(3)へ続く↓↓↓

[成績評価の方法・観点]

授業中行う演習70%、コース終了時の小論文30%　[素点（100点満点）評価]

[教科書]

蝦名玲子 著 『クライシス・緊急事態リスクコミュニケーション(CERC);危機下において人々の命と健康を守るための原則と戦略』（大修館書店、2020年）ISBN:978-4469269000（各自購入 2,420円）
蝦名玲子 著 『公衆衛生の緊急事態にまちの医療者が知っておきたいリスクコミュニケーション』（ 医学書院、2022年）ISBN:978-4260050869（各自購入 2,860円）
教科書を用いるが、演習等は配布資料もあり。

[参考書等]

（参考書）
欧州CDC 著.　蝦名玲子・中山健夫 訳 『健康危機下で必要となるコンピテンシー』（インターメディカ、2025年）ISBN: 978-4899964940（2,420円）

[授業外学修（予習・復習）等]

日々のニュースや保健医療福祉現場で働く同僚等との会話から、本授業から学んだことがいかに現状の改善に活かせるかを普段から考えること。

[その他（オフィスアワー等）]

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]